

奈良県網の目平和行進速報

2023年6月7日

奈良県網の目行進2日目。十津川村温泉の宿を9時出発。

参加者は1日目と同じ3人。

十津川村要請 (9:30)

議会事務局係長、総務課（女性）が応対。和田一幸議会事務局係長「議会決議は議員に資料を配布します。9月議会に向け相談の窓口は私が務めます」。ペナントを後日送付と約束。村役場の駐車場では、新たな防災拠点と診療所の建築工事が進んでいました。

野迫川村要請 (11:50)

副村長が応対。教育長にもご挨拶と要請。中迫喜昭副村長「人口は約350人。本州では最も人口の少ない村。山村留学や空き家を村営住宅にするなどを推進。コロナ後、高野山に観光客（多くは外国人）が戻りその経済効果が村にも波及。核兵器廃絶は当然賛同。議会決議については要望を議員に伝える」。ペナントを頂きました。募金については補助金の見直しなどを行っており協力はできないとのことでした。

教育長には、原爆写真展などの実施をぜひとお願いしました。

天川村要請 (14:15)

総務課長が応対。山本孝行総務課長「若い人の関心が低い。議会決議については議員に伝えます。」ペナントと募金を頂き、記念撮影。

黒滝村要請 (15:50)

総務課課長補佐と女性職員が応対。ペナントと募金を頂きました。要請の様子を写真撮影。

これで県内網の目行進の1日目と2日目終了。7か所の自治体を訪問。ほとんどの自治体で応対した職員が、今井前県議のことを知っており「豪雨災害でお世話になった」「コロナ対応で教育長の時に電話をいただいた」などと和やかに懇談がすすみました。今井前県議は「第2次世界大戦後、戦争を行っていないのは世界で8か国。アジアでは日本とブータンだけ。核抑止力論は、核兵器使用の脅すもの。核兵器は絶対に使ってはいけないもの。核兵器禁止条約への参加を日本政府に求める決議をぜひと各所で訴えました。民医連・西岡知宏さんは「軍事費を増やしたり、核兵器に予算を使うより、村民の生活を豊かにするためにお金を使うべき。小さな村からの声も必ず世界に広がる。ぜひ決議をあげてほしい。」と熱く訴えました。豪雨の影響で、道路が一部通行止めの区間もありましたが、迂回路などでなんとか計画通り、7自治体を訪問することができた2日間でした。（通信・河戸）。



十津川村



野迫川村



天川村



黒滝村